

孫戸妍(ソン・ホヨン)氏肖像



スワニーホワイエに掲げられている孫戸妍さんの肖像と短歌

スワニーホワイエに韓国の歌人、孫戸妍(ソン・ホヨン)さんの肖像写真と、孫さんが詠んだ歌が日本語と韓国語で掲げられています。

せつじつ のぞ ひと われ いさか くに くに
「切実な望みが一つ 吾にあり 諍いのなき 国と国なれ」

日本の教育者であり万葉史研究で知られる中西進氏によってしたためられたこの書は、2005年6月、韓国で日韓首脳会談が行われた際、当時の小泉純一郎総理大臣が記者会見の席上で引用したことで有名になった孫さんの歌です。

孫さんは韓国人の両親のもと日本に生まれ、韓国に帰国後、学業のために再び日本に戻り帝国女子専門学校で学んだあと、韓国人としてのアイデンティティと日本での経験から美しい日本語で短歌を詠むことで、日韓両国の文化的な架け橋の役割を果たしました。80年の生涯で詠んだ歌は2000首をこえると言われていています。いつか日本のどこかに歌碑を建てたいという夢を持っていたところ、思いに共感した協力者が現れるなど様々な偶然や幸運が重なり歌碑の建立が実現することになりました。



中西進氏



尾駮レイクタウンにある孫戸妍さんの歌碑

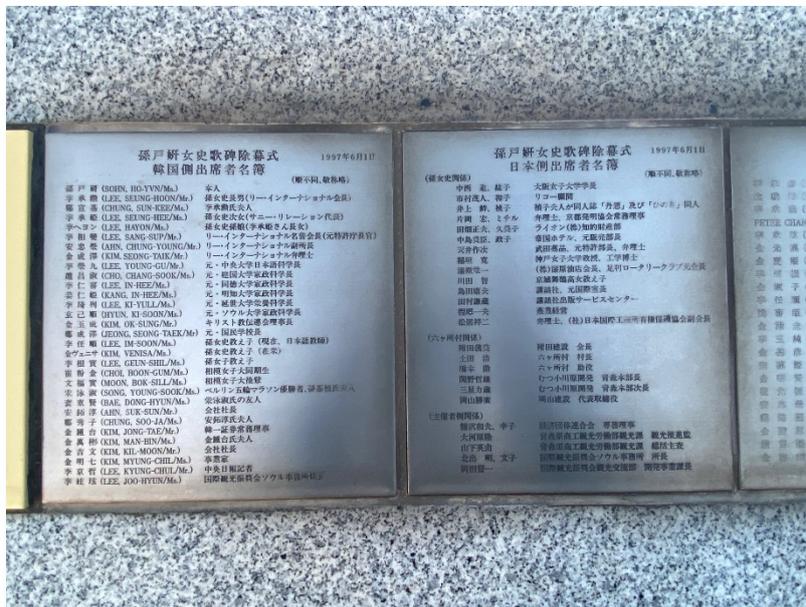
1997年6月、経団連専務理事・糠沢和夫氏(役職当時)、附田建設株式会社会長・附田義美氏らのご尽力により、尾駮レイクタウンにあるスワニーの近隣地に念願の歌碑が建立されました。歌碑建立ののち、その功績を広く知ってもらおうとスワニーに肖像写真が飾られることになりました。



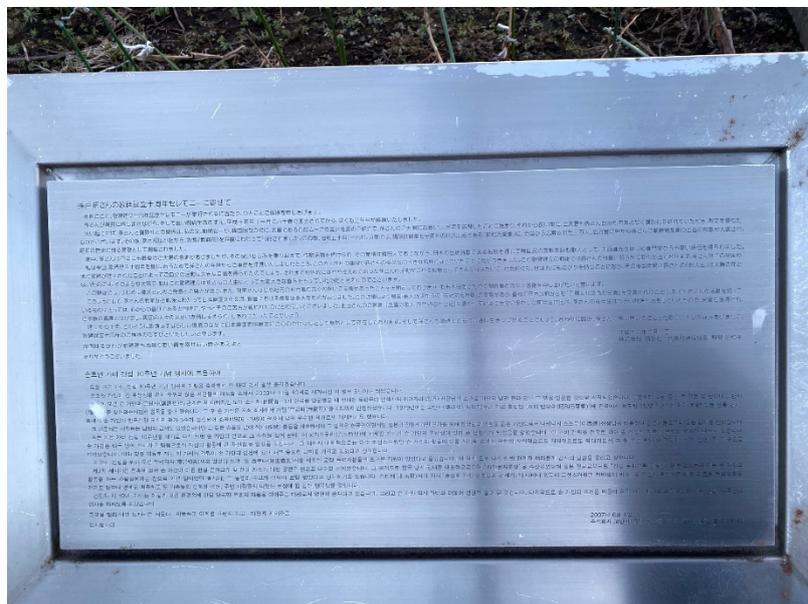
経済団体連合会専務理事 糠沢和夫氏



附田建設株式会社会長 附田義美氏



歌碑除幕式参列者名簿。左側が韓国出席者、右側が日本出席者



株式会社講談社 6代社長、野間佐和子氏によるお祝いの言葉。歌碑十周年記念式典にて

歌人 孫戸妍



孫戸妍 Son-Hoyun (1923-2003)

【略歴】

1923年11月15日、当時、早稲田大学の学生だった父孫洪九のもと東京生まれる。

生後間もなく帰国。

40年、帝国女子専門学校(相模女子大学の前身)に留学。

43年、に同校卒業後、帰国。日本の文部省より京城舞鶴高女教諭に任命される。その間、歌誌「心の花」の主催者、佐々木信綱博士に師事し、短歌を詠み始める。

44年、韓国に帰国し21歳で処女作「戸妍歌集」を講談社より出版。

47年に李允模(イ・ユンモ)氏と結婚、一男四女をもうける。その間、朝鮮動乱による三年余りの避難生活を体験。夫は韓国商工部の特許局長を務め、特許分野の発展のために貢献。退官後は国際工業所有権保護協会(AIPPI)の韓国支部長を長年務める一方、自身の特許事務所を経営した。

78年、万葉集や他の古典文学の研究のため三度来日、昭和女子大学大学院に学んだのち成城大学大学院で中西進教授(現・大阪女子大学長)の指導を受ける。

58年、講談社より「無窮花」出版。

68年、講談社より「第二無窮花」、80年に「第三無窮花」を出版。

83年11月、夫の急逝。

90年、夫との別れを詠んだ歌々を「第四無窮花」にまとめて出版。

※参考文献 「風雪の歌人 孫戸妍の半世紀」(北出明著)講談社出版・孫戸妍歌集(李承信編集)

「日韓友好の懸け橋に」



日韓友好の懸け橋に

東西南北 2007

韓国の和歌歌人・孫戸妍さん



六ヶ所の歌碑 建立10年

六ヶ所の原歌泊を見下ろす高台に、韓国唯一の「和歌」の歌人といわれる孫戸妍(ソン・ホヨン)さんの歌碑が立っている。多感な学生時代を日本で過ごし、戦前・戦中・戦後と長く短歌を詠み続け、二〇〇三年、八十年の生涯を閉じた。わずか三十二文字には韓国や日本との友好・平和への願い、家族や友人に対する愛が凝縮されている。戸妍さんの長女・李承信(イ・スンシン)さん(十二人)がこのほど韓国・ソウルから来訪。花束をさげた。歌碑建立から六月で十年、多くの人が今も戸妍さんの「心のまなこ」になった本拠、六ヶ所村を訪れ続けている。

(野辺地局・珍田秀樹)



承信さん(右)が韓国語・英語訳をした短歌集などを受け取る古川村長



孫戸妍さんの歌碑を訪れた韓国・ソウルからの一行。後ろに見えるのが「君よわが愛のー」の歌碑

国内から 来訪者絶えず

君よわが愛の深きをた 案、四村の会役員貞田めさむと、かりそめに 義美さん(左)の協力を得て九七年六月、原歌泊に刻まれた短歌は、クタウンの一角に歌碑が一九八三年に建立した。完成した。

李承信(イ・ユンモ) 母国の文化殿堂受賞

歌碑建立五周年を記念して、信じてくれないといふことにより、母国で無名な思いが伝わってくる。に近か、戸妍さんへの日韓経済協会の会報を、関心は急速に高まった。当時のむつ山原開墾会、はたし和歌を詠む戸妍さん、社長・韓沢和夫さん、に、植民地支配な(当時)が戸妍さんの短歌、日本に歌碑を建てた、とて反目感情のある韓国、歌引用、話題を呼んだ。承信さんが通つソウルのキリスト教会の友人、三ヶ所村には問い合わせや、

何度も青森訪れる

戸妍さんは元青い森の特別員も務めており、承信さんは「母は六ヶ所村が好き、村を詠んだ短歌もたくさんある。母と同じように、ここを訪れた人たちは自然あふれる村や青森県をとても気に入る、何度も来てくれる、もいるんです」と笑顔で語る。

附田さんは「歌碑建立によって、戸妍さんに光が当たっていることをとてもうれしく思う。交流

訪問が相次いだ。二月二十一日、歌碑を、二回訪れた承信さんら一行、三人は建立当時を回想し、附田さんと、当時、つづ、戸妍さんという、沢さんの下で建立のため、大きな人物とかわかれた奔走した三星力蔵さん、のはとても光榮な」と、三が出席した。村文化

交流プラザ「スワン」に、承信さんは現在、孫戸妍さんが書いた、研記念事業理事として、ハンケルと、戸妍さんの母の短歌の韓国語訳、師の一人で文学博士・中、英訳の出版や戸妍さんの人生の映像化などに取西進氏の筆による垂れ幕、が掲げられた。古川津治り組んでいる。戸妍さん村長はその前で、「歌碑を、と暮らした家をキヤラリ通じて村と日本、村と韓、に改築し、文化芸術空間として、いつまでも、戸妍さんの心のふ、隣りて胸にも近き國、なれど、無窮花(むくげ)を愛でてはいついも愛でて

名刺にこの和歌をさり込んで、承信さん、韓国では、多くの知識人が短歌に関心を持っている。今後、父母の人生を描いた映画を作ることと、母の記念館を日韓両国に建てることを目標、

年、教師さんに韓国語に訳した母の歌集を贈っ、そして持来、日韓平和賞を創設したい。日韓の友たてられた。以来、教会内、好、世界の平和が続くと、母の短歌ファンが増え、とほ母の祈りであり私のえ、たくさんの方が歌碑を訪れて、と承信さん。

歌碑の建立から10年を迎えた2007年、六ヶ所村を訪問した孫さんの娘、李承信(イ・スンシン)さんらを紹介した当時の新聞記事。